

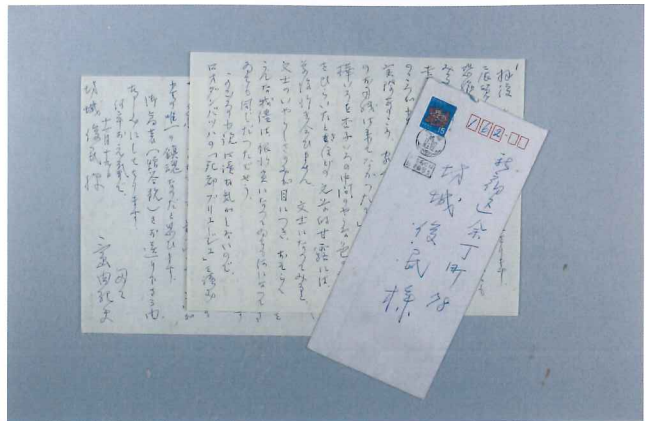
〈三島由紀夫〉の水端 ―学習院での日々

平岡公威(三島由紀夫)は、少年期・青年期という多感な時代(1931-44)を学習院で過ごした。13年間にわたる日々は、平岡公威、そしてのちの小説家・三島由紀夫の考え方や生き方を形成する上で大きな影響を与えた。中でも、文芸活動を培う風土と幅広い年代の学友との交流の存在は看過出来ない。

昭和初期、学習院では同院出身の志賀直哉(1883-1971)や武者小路実篤(1885-1976)ら白樺派および雑誌「白樺」の存在が、後輩たちを大いに刺激し、創作活動が盛んに行われていた。平岡も初等科時代から雑誌「小ざくら」に詩や和歌、俳句を発表し、頭角を現していた。

国語・漢文教授の清水文雄(1903-98)に認められ、昭和16年(1941)「花ざかりの森」で、三島由紀夫の筆名で文壇に登場するが、平岡公威から三島由紀夫となる過渡期には、「輔仁会雑誌」を主な活動の場としていた。昭和13年(1938)、「輔仁会雑誌」161号に初の小説「酸模」、「座禅物語」を皮切りに、「彩絵硝子」など次々と作品を発表した。また、輔仁会の句会や弁論大会にも積極的に参加し、編集委員も務めた。

学習院の学生の6割程度は華族や皇族の子弟であり、そのような環境下で平岡の〈雅〉に対する感性は磨かれていった。その一人、坊城俊民(1917-90)は一早く、中等科に入った平岡の文才を見出した。また、室生犀星(1889-1962)に師事していた東文彦(1920-43)や、のちに『花ざ



昭和45年(1970)11月19日 三島由紀夫より坊城俊民宛書簡

かりの森』の装幀を手がける徳川義恭(1921-49)とは同人誌「赤絵」を刊行し、互いに切磋琢磨した。彼らとの交友がもたらした影響は作品を読むことで明らかとなるだろう。

遺作「豊饒の海」の第一巻『春の雪』には東別館や血洗いの池をはじめとする学習院のキャンパスが舞台として登場し、作品世界と深く関わっていく。初等科時代の作品から三島由紀夫となってからの『花ざかりの森』、そして『春の雪』に至るまで、〈学習院〉は三島文学における重要なトポスの一つと言えよう。

(学芸員 富田ゆり・丸山美季)

学習院中・高等科文化祭「鳳櫻祭」特別展示「三島由紀夫と学習院」



会期 平成30年(2018)
11月3日(土)～4日(日)
会場 学習院中等科図書館
開館 9:00～16:00
主催 学習院中等科生徒会
協力 学習院大学史料館
学習院アーカイブズ

二〇一八年は、ストラスプール。春の雪の日のなかを一つの展示が行われていた。名作『金閣寺』の作者として知られるある人物をめぐるその展示、名を、「MISHIMA ET LE PAVILLON D'OR」。あるいは「三島由紀夫と『金閣寺』」。

“三島由紀夫”という固有名詞に記憶されている華々しい「物語」は、二十四で『仮面の告白』を書き、四十五歳にして『豊饒の海』四部作を描ききってしまう、まぎれもない天才作家でありながら、一体何者なのか、誰もが姿を知らない。彼は一体いかにして“三島由紀夫”となったのだろうか？

鍵は、青春を過ごした学習院中等科とその周縁にあるように思われる。冒頭に紹介した、かの地の展示会では、フランス詩集と並列といってもよいほど彼に影響を与えた先輩、坊城俊民との、最晩年に書かれた書簡が紹介された。本史料にて三島は、学習院中等科が自分にとって黄金時代であった、と述べている。本展は、日本初公開となる本史料を中心としながら、知られざる彼の学習院時代にスポットをあて、本名平岡公威、か弱い一人の少年がいかにして、小説家三島由紀夫となったかを見てゆきたい。三島文学とは何か？ こうした問いへ、わずかながらでも一助になれば幸いである。

さらに展示では、私たちが、独自に面白い三島作品を選出。解題を試みた。(尚、当日は、中等科生による文集を配布予定。)学習院中・高等科は昭和六十一年(一九八六)以降、文化祭のことを「鳳櫻祭」と呼んでいる。文化祭自体の起源はさらに古く、一「学習院祭」と呼ばれる、初・中・高・大全課程合同で行われる祭から独立、昭和四十四年(一九六九)にスタートした「中・高祭」を起とするならば一coming of ageという伝統をもつことになる。毎年、様々な文化部が個性豊かな研究成果を報告・発表している。

一方で、学習院は、あまたの作家・文人を生んできた。

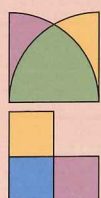
こうした私たち学習院の背負った文化の歴史と、三島文学がどのように融合するのか、どのような化学変化をもたらすのか、

皆様、是非、ご覧下されたし。

平成三十年秋 佐々木大樹(三年三組 生徒会長)

ミュージアム・レター第39号

平成30年(2018)10月22日発行
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
電話 03(5992)1173
FAX 03(5992)9219



Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館

●ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>